集束超音波治療（しゅうそくちょうおんぱちりょう：FUS）で治す「ふるえ」について

両手足や頭部がふるえる症状のことを振戦（しんせん）と呼びます。振戦は、年を取るにつれて出るものや緊張した時や筋肉疲労時に出るような「生理学的な振戦」と「病気が原因となる振戦」があります。生理的な振戦は治療の必要はありませんが、病的振戦は治療の対象となります。

病的な振戦は、主に①本態性振戦（ほんたいせいしんせん）と②パーキンソン病に伴う振戦があります。①本態性振戦は、明らかな原因となる病変がないにもかかわらず、液体の入ったコップを持ったり、文字を書いたりするときに、強いふるえが出現する病気です。パーキンソン病は、歩行障害、筋強剛(筋肉のこわばり)、振戦などを主な症状とする病気で、主に静止時に出現する振戦が中心で、様々な薬を使った治療が行われています。どちらの病気も日常生活に影響が出るため、治療がおこなわれます。

ここでは、本態性振戦に対する治療について説明します。脳神経外科や神経内科で、本態性振戦と診断された場合、まずは薬を飲む治療が開始されます。主に、ベータブロッカー（心臓や血管をコントロールする神経に作用する薬）や抗てんかん剤（てんかんをコントロールする薬）などが用いられます。これらの薬の組み合わせにより、症状が軽くなる方も多いのですが、薬の治療でも改善が少ない場合、外科的な治療が検討される場合があります。

外科的治療は、ふるえに関係する脳の一部を熱で固めるもので、頭がい骨を一部開けて行う方法（穿頭術）と、最近は頭がい骨を開けることなく外から超音波を一点に集中させることで治療する方法(経頭蓋集束超音波治療(けいずがい しゅうそくちょうおんぱちりょう))の2種類があります。当院では、後者の集束超音波治療を行っております。

詳細はお電話にてお問合せください。

ふるえの事を詳しく知りたい方　→　https://furue.org